

# 緊急防災情報としての震源断層即時推定手法の開発に関する研究

(概算要求額 19,148千円)

## 【背景・目的】

中越地震(2006)のような複雑な地下構造地域で発生した内陸地震では、震源地と被害地域が必ずしも一致しない。

地震断層を推定し震源域の範囲を即座に推定することにより、早期に被害集中域の特定が可能。スマトラ島沖地震(2004)のような超巨大地震や明治三陸津波(1896)、ジャワ島南部の津波(2006)のような津波地震など、ゆっくりと断層がずれる地震では津波検知能力に限界がある。

ゆっくりした変動も捉えられる地殻変動観測から広域に及ぶ震源断層の広がりを推定することにより、津波予測精度の向上を図ることが可能

## 【施策の概要】

大地震発生時の地殻変動モデルを自動的に推定するシステムの開発

地殻変動データを用いた断層モデルを自動的に推定する手法の開発

推定した断層モデルを地震発生後10分以内に、緊急防災情報として関係機関に提供する

## 【効果】

断層モデル速報による被害集中地域の特定

迅速な災害対策や復旧活動の体制構築に貢献

津波警報システム(気象庁)への補完情報発信

津波予測精度の向上に寄与

